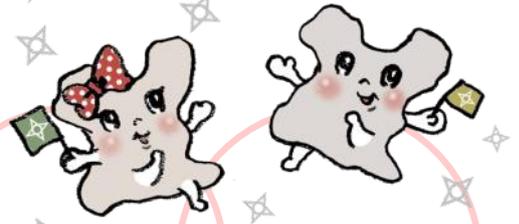


回										
覧										

つながる
Vol. 43
輪・和・WA...
わ
輪・和・WA...



発行：盛岡市市民部市民協働推進課

〒020-8530 盛岡市内丸12-2

TEL：019-626-7500（直通）

E-mail：kyodo@city.morioka.iwate.jp

（平成27年6月発行）



力を合わせてきれいな池に
亀ヶ池浄化モリモリプロジェクト

栈橋の改修工事のために水が抜かれている盛岡城跡公園の亀ヶ池をきれいにしようと立ち上がった『盛岡城跡公園亀ヶ池浄化「モリモリ」プロジェクト実行委員会(坂本広行委員長)』。

5月17日、呼び掛けに集まった160人を超えるボランティアが清掃活動を実施しました。

中学生から高齢者まで幅広い年代の参加者は希望郷いわて国体・希望郷いわて大会に訪れる人を、きれいなまちで気持ちよく迎えようと作

業を実施。約30の企業・団体も協賛・協力して物品や車両、飲食等を提供し、実行委員会と行政、ボランティアによる協働のプロジェクトの運営を支えました。

ボランティアとして参加した盛岡社会福祉専門学校の阿部誠さん、吉濱祥太さん、在原誠一さんは、「これからもきれいな盛岡を保つために自分にできることを続けて行きたいです」と話してくれました。

地域の“モリアゲ”仕掛け人

八幡活性化を目指すぼんぼこ市は
地域の結束を深める町内会の行事



もりおか八幡界隈まちづくりの会

あけと	ひとし	
明戸	均	会長
しむら	しげる	
志村	滋	事務局長
おおいし	きみお	
大石	仁雄	事務局次長

「八幡ぼんぼこ市」は4年目を迎える。5月17日の今年の開幕には70店が出店し、3000人が来場。いずれも過去最高の記録となった。

八幡ぼんぼこ市のベースにあるのは、八幡通り改修後の開通祝賀イベントを八幡町の3つの町内会が協力して担ったときの成功体験。今も地域の結束を深める“町内会行事”であるとの意識は変わっていない。

今年1月、「これでいいのか！ぼんぼこ市」と銘打ったワークショップを初めて開催。3年を振り返って40人が意見を交わした。意見をもとにいくつかの改善をしたが「まだ未完成」という意識を常に持ち続け、毎回の構成は住民が主体になって考えている。

「誰かが考えたものに参加させられる」のではなく「自分も関わった企画に参加する」意識が住民に根付く。運営スタッフは動員や割当をしなくても、町内の人達が自然と集まる。

人の目に直接触れるポスターとチラシに力を入れるが、Facebookも活用。開催日には、写真や動画で“今”をリアルタイムで発信する。開催日以外にも八幡の情報を発信し、八幡ファンや応援団を広げる。たぬきを模した着ぐるみや大道芸で盛り上げてくれる応援団も登場。出店者、出演者にも八幡を育ててもらっている。

ぼんぼこ市はとにかく続けたい。それは八幡のまちなみや伝統をこの先どう伝えるかを考えたいから。八幡ぼんぼこ市は、活性化を目指す催しだが、考えるきっかけでしかないのだ。



5月と11月には八幡の名物となった「ぼんぼこ汁」が振る舞われた。笑顔でぼんぼこ市を支えるスタッフは自ら集まってくる

盛岡市の中心部で地域活性化を目指した活動を行う2つの団体。ともに、そこに住んでいる人、働いている人、事業を営む企業などが協働した取組を展開しています。地域で協働した事業を仕掛ける「地域の“モリアゲ”仕掛け人」にお話を伺いました。

「紺屋町かいわいスタンプラリー」は今年で5回目。企業からの協賛をいただき、このかいわいで暮らすメンバーが、それぞれの得意分野で役割を分担して運営してきた。

赤レンガの岩手銀行や望楼が残る消防番屋、鉄器や染物、南部せんべいの工房など、観光スポットが多く、観光客は多く訪れる。でも、まちの魅力の多くは、盛岡に暮らしている人に知られていないとも感じてきた。

1980年代、川徳が菜園に移転した後の河南地区の活性化に向けて「南部もりおか暖簾の会」がスタンプラリーをやっていたことをミニコミ誌「てくり」が取り上げ、当時のスタンプを使ってもう一度企画できないかと仲間うち数人が言い出したのが発端。手に入らずにあきらめかけたが、新たに一からスタンプラリーを作ろうと立ち上げたのが2010年。2011年に開催した第1回の協力施設は19だったが、今年の協力施設は36に。1000部用意した台紙は完売し、過去最高の470人がゴールした。

スタンプラリーの参加者の年齢層は幅広い。参加することでいろいろなまちの魅力に気付く、感じるとともに、伝えてほしいとも願う。

協力施設なども横に繋がる。紺屋町以外の各地区の取組とも繋がることで、点が線になり、面になり、盛岡全体が活性化すると思う。この先を見通し、このかいわいの“まち”の“使い方”をみんな考えていく、そのきっかけにしたいと考えている。



紺屋町かいわい街並み協議会

もり まさひこ
森 理彦 会長

スタンプラリーで楽しみ、歩きながら
紺屋町かいわいの魅力を肌で感じて

36施設が協力してスタンプを用意した
スタンプラリーの受付・ゴールになった紺屋町番屋。神明町から本町通りまでの店舗など





News & Topics

協働はそれぞれの強みの掛け算

もりおかNPO連絡協議会研修会

もりおかNPO連絡協議会（浅沼道成会長）は、5月21日に盛岡駅西通一丁目の岩手県民交流センターで総会と研修会を開きました。

研修会では、いちのせき市民活動センターの小野寺浩樹センター長が「市民活動団体ネットワークと協働」と題して、一関市の市民活動団体のネットワーク「INArch」や一関市の委託で実施している市民活動センターの取組などを紹介。「異なる分野で活動する団体の連携・協力は小さなことで始まり、それが団体同士の協働に繋がる」としたうえで、「NPO同士でも、NPOと行政でも、協働の取組は“強みの



いちのせき市民活動センターの小野寺浩樹センター長の講演に聞き入る参加者

掛け算”であって足の引っ張り合いではない。自分の団体にとって“協働”ってどんなこと？という定義を、メンバーで話し合うことから始めてはどうだろう」と語りかけました。

参加者は小野寺さんが軽快に進める講演に聞き入りながら、熱心にメモを取っていました。

【もりおかNPO連絡協議会】盛岡市内のNPO法人や町内会、市民活動団体などのネットワーク組織で、約80団体が加盟している。事務局は、〒020-0023 盛岡市内丸16-15（NPO法人いわてNPOフォーラム21）。電話は019-605-8271。



補助金・助成金情報

太陽生命厚生財団事業助成

◆**助成対象**：ボランティアグループ等が在宅高齢者または在宅障がい者等のために福祉活動や文化活動を行うために必要な費用または機器、機材、備品等を整備するための費用を助成。◆**助成金額**：1件当たり10～50万円（総額2000万円）◆**応募締切**：平成27年6月30日（当日必着）◆**連絡先**：〒143-0016 東京都大田区大森北1-17-4太陽生命大森ビル 公益財団法人 太陽生命厚生財団 事務局（電話・ファクス：03-6674-1217）

応募要項・団体要件など詳しくは、太陽生命厚生財団のホームページ<http://www.taiyolife-zaidan.or.jp>でご確認ください。



地域情報・NPO情報 要望をお寄せください

「つながる“わ”」は、偶数月に発行します。町内会・自治会の活動、NPOの活動のほか、市民活動に取り組む皆さんのお役に立つ情報を紹介します。

上田公民館と河南公民館に設置した市民協働推進センターでも情報提供していきます。

皆さんの知りたい情報や取材して取り上げて欲しいテーマなどがありましたら、ぜひお寄せください。

【送り先】

〒020-8530（住所不要）
盛岡市役所市民協働推進課「つながるわ」係
ファクスは019-622-6211へ。
電子メールはkyodo@city.morioka.iwate.jp
へどうぞ。